

# 平成29年度「女性研究者交流会」開催報告

平成29年8月24日（木）

於・まちなかキャンパス長岡（新潟県長岡市）

平成29年8月24日（木）にまちなかキャンパス長岡（新潟県長岡市）において「平成29年度女性研究者交流会」を開催しました。北海道から鹿児島まで全国の高専から女性研究者が集い、意見交換を行いました。

今回は二部形式で第1部は長岡技術科学大学より講師2名を迎えての講演会、第2部は3つのテーマに分かれてワークショップを行い、女性研究者の取組みを共有しつつ、互いに意見を交わしました。

## 《 プログラム 》

### ■ 第1部（9:00～9:50）

#### ◆開会挨拶 男女共同参画推進室長 藤木なほみ教授（仙台大専）

#### ◆講演1:「長岡技科大と高専教員の連携のあり方及び女性研究者の可能性」

長岡技術科学大学 高橋 勉 教授

長岡技術科学大学の高橋勉教授より、高専教員が抱えている苦悩とその対処法について、時間編／資金編に分けて研究のマネジメント例や企業との共同研究のススメをお話いただきました。次に、高専・長岡技科大による専攻科共同研究指導の事例紹介がありました。そして、企業の女性研究者との共同研究を通して感じたことや高専の女性研究者が持つ可能性についてお話いただきました。

#### ◆講演2:「交流事例紹介」

長岡技術科学大学 峯脇 さやか 助教

弓削商船高等専門学校から長岡技術科学大学に人事交流中である峯脇先生から、人事交流のメリットとして“新たな人脈が広がる”ことや“異なる研究分野に挑戦することで見識が広がる”というご自身の体験談や高専・技大間における連携の可能性についてお話いただきました。

### ■ 第2部（10:10～12:25）

#### ◆ワークショップA:自分の持ち味は何か、それを公募研究にどのように活かしたらよいか

長岡技術科学大学 斎藤 秀俊 教授

産業技術総合研究所 中村 拳子 上級主任研究員

（ワークショップまとめ:奈良工業高等専門学校 藤田 直幸 教授）

「科研費などの外部資金の獲得を目指すには、まずは、自分たちの強みを知ることである」ということを主眼に置いたワークショップを開催しました。中村アドバイザーによる自身の研究歴紹介に続き、斎藤アドバイザーから科研費制度の変更ポイントについて解説を受け、「個人の強み」、「所在地の強み」、「所属高専の強み」という3つの側面から、各自が研究者として自分の強みを探り、参加者全体で共有しました。

ユニークな研究を開始するためのヒントを得ると共に、研究テーマ発見法の訓練ともなりました。

#### ◆ワークショップB:ワークライフバランスの実践と自分らしい研究の継続を考える

奈良工業高等専門学校 後藤 景子 校長

大阪工業大学 上田 悦子 教授

（ワークショップまとめ:佐世保工業高等専門学校 大島 多美子 准教授）

9マスにキーワードを埋めていく発想法“マンダラート”を使い研究者として明日からできる行動を考えるワークを行いました。前半は“研究時間を確保する”をテーマに、出張は論文を書くチャンス、10分時間があれば論文の構想を練る、英語論文はお金をかけても良い（餅は餅屋）等のアイデアやノウハウを話し合い、後半は“研究スタイルを確立する”をテーマに、学外ネットワークを作る、異分野に挑戦する（理工系分野で文系は活躍の場がある）、恩師や昔の仲間等に怒られるのも必要、など実体験に基づくコツを共有しました。

## ■ 第2部(10:10~12:25)

### ◆ワークショップC:高専の教育現場と研究の両立について

松江工業高等専門学校 平山 けい 校長  
香川高等専門学校 内田 由理子 教授  
(ワークショップまとめ:福島工業高等専門学校 松江 俊一 准教授)

平山校長からひとりで悩まないというテーマが提示されたところから活発な意見交換がなされました。前半は研究との両立が困難な原因として担任業務の多忙さを挙げ、多忙には、多くの教職員を巻き込んで「ひとりで悩まない」心掛けが大事であることを確認し合いました。後半は高専で顕在化している問題について女性教員ならではの意見交換を行いました。特に課外活動の引率、女子寮のセキュリティや対応策などが話題となり、今後、会議等で議題に挙げてもらいたい等、建設的な意見交換がなされました。



※上記3点の写真はワークショップの様子です。

### ◆質疑応答

### ◆閉会挨拶:高橋 雅之 執行調整役(国立高等専門学校機構)

## 《事後アンケートより》

交流会参加者にアンケートを実施したところ、「とてもよかった」「よかった」との回答が合わせて97%を超えて概ね好評でした。開催時期に関しても夏休み中で参加しやすいと感じた参加者が多いようでしたが、高専フォーラム開会式以後のセッションの一つにしてはとの意見も出ました。

記述式の事由回答では、「他高専の話も聞けて参考になった」「悩み、課題の共有ができた」「研究に対する新しい気づきがあった」「モチベーションが上がった」等のポジティブな意見が多数みられました。